



Boat Impression

# YAMAHA DFR-FB

DIESEL FISHING REVOLUTION-FLYING BRIDGE

## YAMAHA DFR-FB

全長:11.07m 全幅:3.20m 全深さ:2.01m  
艇体質量:4,189kg 完成質量:5,586kg  
搭載エンジン:Volvo D9-500 最大搭載馬力:500ps  
燃料タンク容量:650L 清水タンク容量:56L  
定員:12名 航行区域:沿海

本体価格: 30,929,000円 (税抜)



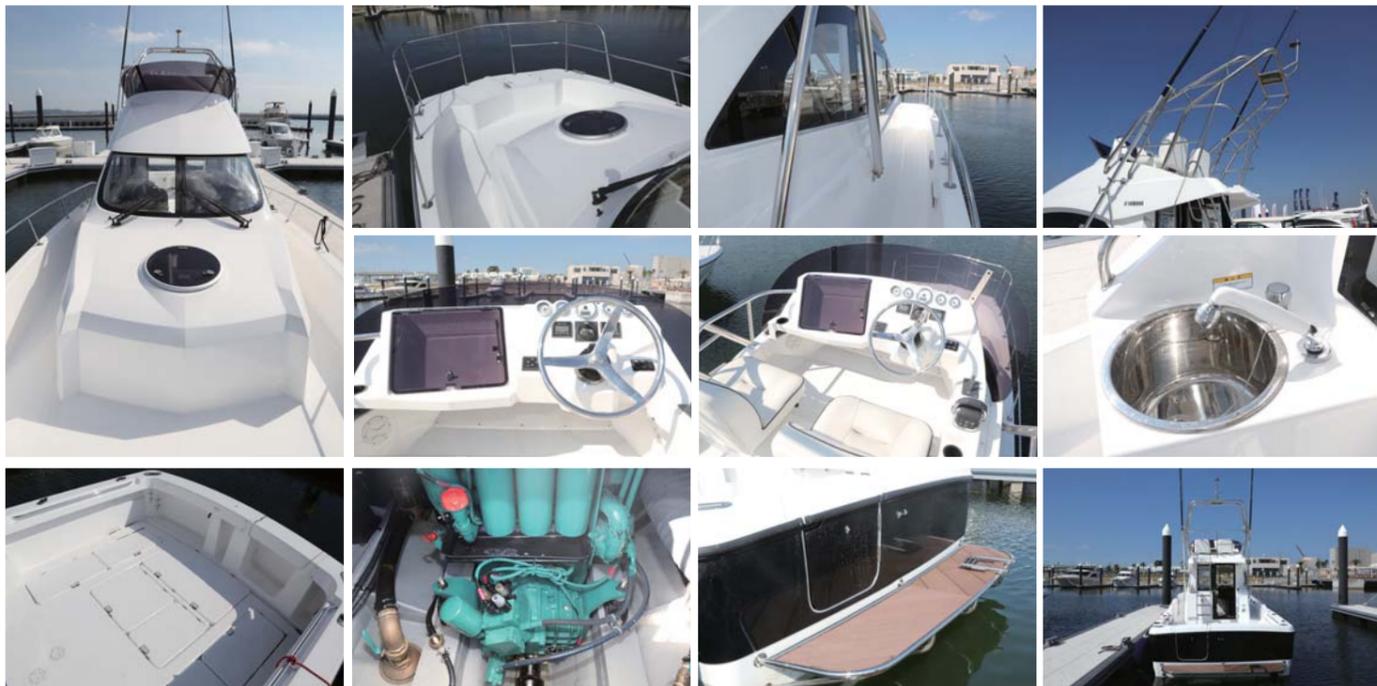
取材協力:ヤマハ発動機株式会社 国内営業部 中部販売課 TEL:0533-66-3421 URL:<http://www.yamaha-motor.co.jp/marine/>



今春の登場以来ユーザーから高い人気を誇っている人気フィッシングボート『ヤマハDFR』に新たにFB(フライングブリッジ)モデルが登場した。それが今回ご紹介する『ヤマハDFR-FB』だ。このボートはクルージング、ボートフィッシング〜トローリングまで、ユーザーの遊び方にとことん対応してくれる万能型ボートで、ユーザーの遊びの可能性を最大限に広げてくれる期待のニューモデルだ。事実、今シーズンの試乗会場等で、真剣な表情で試乗されている方々を見る機会は少なく無い。今回はそんなDFR-FBの持つ高い万能性と秘めたポテンシャルをとことんご紹介していこうと思う。まず最初に注目して欲しいのは、やはりフライングブリッジである。これによってこのボートの持つポテンシャルは最大限に引き上げられたと言っても過言では無い。操船の際に味わえる開放感たっぷりの走りはもちろん、潮目を探したり、船内での息の合ったチームプレーが求められるトローリングにも高いレベルで対応可能になった

のである。もちろんキャストイングでのマグロやシイラを狙った釣りにもしっかりと対応してくれている。そんなDFR-FBの走行性能はというと、最大搭載馬力500psの先進のディーゼルエンジンを1基搭載したシャフト船で、加速性能は申し分無い。無理に引っ張られるような加速では無く、力強く背中を押される加速感、同船したゲストや仲間にも高い安心感をもたらしてくれるだろう。また、独自のハルデザインによって旋回時の反応や波の当たり方も非常にスムーズでコーナリングは非常に切れるイメージを持った。また、大きく波を叩く事もなく当たり方も実にソフトだ。これにより、操船側だけでなく、同船者も長時間のポイント移動やクルージング時にストレスを感じにくいのではないだろうか。また、多少波を切ってもスプレーがしっかりと外側に飛ぶため、走行中パウデッキがずぶ濡れになるなんて事も無さそう。更にはパウとスターンにはスラスターが付いており(スターンスラスターは工場OP)、それぞ





パウデッキは広く、パウレールもあるためキャストイングも安心して楽しめる。ウォークアラウンドの幅も十分で狭さは感じない。レーダーゲート(工場OP)はポートの見た目のインパクトを強めてくれて、フライングブリッジでは360度の視界を楽しむ事が出来る。アフトシンク&シャワーの付いたスターンデッキはフラットで使い勝手も良い。また、エンジンは先進のディーゼルエンジンを使用し、低燃費かつハイパワーを実現。トランサムステップ(工場OP)で遊びの幅も広げられそう。

れ効きも非常に良く、離着岸や向きを変えたい時に高い性能を発揮してくれる。そしてフライングブリッジからの眺めは開放感抜群で、操船時には360度の視野に海だけが広がるのである。これなら、キャストイングやトロリング時にも広い視野を活かした臨機応変な操船や素早い潮目の発見も出来るし、クルージング時には前方に浮かぶ浮遊物の確認も早そう。また、フライングブリッジは大人2人が快適に座れる

広さがあり、会話を楽しみながら潮風を感じる走りが楽しめそう。フライングブリッジから見える前方のパウデッキはスクエア形状で動きやすい。更には腰の高さまであるパウレールがキャストイングやジギングの際にしっかりと体を預けさせてくれるので、非常に釣りがし易いのである。そして、スターンに降りてみると、フラットで作業し易いレイアウトのスターンデッキが広がり、トランサムゲートを採用した事で、カジキ

キャブのロアステーションは計器類が効率良くまとめられており、丸いアナログメーターもサイズが丁度良くて見やすい。スロットルレバーも手に自然にフィットしてくれ、とても操作し易い。パウバースは大人2人がゆったりと寝転がる事が出来て、カーテンも付いているためプライベートルームとしても使用出来る。ギャレーも付いているので、軽食の準備も可能だ。他にも左舷パッセンジャーズシートや冷蔵庫(工場OP)、個室トイレルームも備わっており、快適に過ごす事が出来そう。

やシイラ等の大物の取り込みも容易になっている。トランサムには工場オプションのトランサムステップを設ける事で、ポートエントリーも簡単に出来そう。次にキャブに足を踏み入ると、そこには木目調で統一された高級感ある空間が広がっている。大人5人がゆったりと座れるシート数やプライベート空間にも出来るカーテン付きのパウバースはとてもリラックスする事が出来る。また、船中泊の際には欠かせな

いギャレーや個室トイレも完備しているので、週末マリーナステイやポートステイをしても十分充実した休日を過ごせるのではないだろうか。更には釣りのシーンにおいても、オンとオフをしっかりと切り替えさせてくれて、移動中や帰港後の会話も弾みそう。今回ご紹介したヤマハDFR-FBは多種多様なユーザーの遊びにしっかりと応えてくれる、ユーティリティーかつポテンシャル溢れる万能型ボートであった。